

今後の技術士制度設計上の検討事項(案)

資料 5-1

技術者のあるべき姿(理想像)

- 技術の高度化・統合化・専門化・国際化等に伴う変化に対応した、ものづくりをリードする高度専門技術者
- 大規模災害やインフラ事故で失墜しかねない科学技術に対する国民の信頼に応えた、高い専門性と崇高な倫理観を有する技術者
- 豊富な実務経験、専門的学識、創造性を持って、複合的な技術的問題を発見し解決する技術者 等

技術者のあるべき姿(理想像)を実現させるための「技術士制度」の在り方(検討事項)

多くの技術者が、**技術士資格(以下「技術士」)の取得を通じて**、上記の理想とする技術者を目指すことを期待

長期(10年後)

- ・技術士に対する幅広い認知と有効活用(民間企業等における技術者の育成プロセスに活用等)
- ・技術士がグローバルに活躍できる技術者であることの証明・定着(国際的通用性を有する資格)

中期(5年後)

- ・民間企業等における若手技術者(新入技術系社員等)の育成プロセスに活用(キャリア形成スキームへ位置付け)
- ・国際的通用性を有する技術者の称号(P.E.Jp)として国際社会に発信(例:IEA総会)
- ・技術者の実務経験(実績)を重視した審査(技術士試験)
- ・高等教育機関における技術者教育から一貫した整合性のある技術者キャリア形成スキームの構築

短期(1~2年後)

(平成27年2月(今期分科会任期))【予定】

- ・技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)に基づく技術士試験の基本的枠組み(試験内容・方法等)
- ・専門技術の範囲拡大に見合う、技術部門・選択科目の大胆な再編
- ・他の国家資格等との相互活用

(平成25年度中)【予定】

- ・技術者のキャリアパスの観点から、「技術士補」(第1次試験)、「技術士」(第2次試験)の位置付けの明確化
- ・技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)の策定(国際的通用性を踏まえたもの(参考:IEAのPC))
- ・総合技術監理部門の活用(事項追加等)
- ・CPDや「技術士フェロー(仮称)」等による継続研さんの充実
- ・活用範囲の拡大(他の行政機関との連携、民間企業や学協会等との連携)